

問題〇〇8 平城京と天平文化①②

01〔 天皇〕の710年、藤原京から平城京に遷都した。このような都城の内部は〔 制〕により整然と区画されていた。

02 都は朱雀大路を挟み東側が〔 京〕西側が〔 京〕とされ、それぞれ東市、西市が置かれて〔 〕が監督した。

03 元明天皇の708年、秩父から銅が献上されたのを機に年号が和銅と改元され、〔 〕が発行された。以後、958年の乾元大宝までの銅銭12種類を〔 〕とよぶ。また、その流通を促すため、711年には〔 〕が発令された。

04 東北では724年に今の宮城県の〔 城〕に鎮守府が置かれて対蝦夷の最前線基地となった。

05 現在の鹿児島県南東部の隼人の居住地に713年、〔 国〕が設置された。

06 遣唐使は舒明天皇の630年〔 〕の派遣に始まり、894年、〔 〕の建言で宇多天皇がこれを停止するまで続いた。

07 遣唐使は、朝鮮半島南部を進む〔 〕がとられたが、〔 〕との関係悪化から、8世紀以降は南路・南島路をとらざるを得なくなった。

08 遣唐使の中には、玄宗皇帝に重用された〔 〕や、藤原清河など中国で生涯を終えた者もいた。

09 9世紀初めに遣唐使の一員となった〔 〕・〔 〕は帰国後それぞれ天台宗・真言宗を開いた。

10〔 〕との交流も6世紀末から始まったが、8世紀にこの国は日本への朝貢を拒否、関係が悪化した。

01 中国東北部に高句麗の遺民らが建国した〔 〕との交流も6世紀末から始まり、友好的な関係が続いた。初期には政治的な目的だったが、のちには交易が主な目的となった。

02 中臣鎌足(藤原鎌足)の子の〔 〕は娘を聖武天皇の后にした。

03 中継ぎ女帝の元明天皇、元正天皇の後をついで即位したのは、成人した〔 天皇〕である。

04 藤原不比等の死後、政権のトップには〔 王〕がついたが、藤原4子の陰謀により自害に追い込まれた。

05 藤原4子などの公卿が〔 〕の流行により相次いで死亡すると、政権のトップには生き残った〔 〕が立ち、遣唐使から帰国した玄昉や〔 〕が重用された。

06 この政権に対し、大宰府に左遷されていた〔藤原 〕が反乱を起こしたが鎮圧された。

07 この乱におびえた聖武天皇は、都を〔 京〕難波宮、紫香楽宮と転々とした。

08 仏教への依存を強めた聖武天皇は、〔 宮〕で大仏造立の詔を発し、大仏造りを始めた。のち平城京に戻ってこの地で大仏造りを再開し、757年大仏開眼供養が開かれた。

09〔藤原 〕が台頭すると、立花諸兄は引退に追い込まれ、諸兄の子が起こした〔 〕の変〕にも勝利して権力を独占した。

10 孝謙上皇と結んだ僧〔 〕が台頭すると、その排除を掲げて〔 〕の乱〕が起きたが鎮圧された。この乱の結果、淳仁天皇は廃され、孝謙上皇が再び即位して〔 天皇〕となり、道鏡の政権の後ろ盾となった。